

特色ある専門教育

Point1 人文社会科学の 広い領域が学べる

各学科で専門的な学修を深める上で、人文社会科学の幅広い分野の基礎的な知識を修得することが重要になります。本学部では、分野横断的に、人文社会科学が直面している課題や、現代社会と地域の問題を幅広く学び、総合的な視野を養うことを目標に、卒業単位の一部に「自由科目」を設定しており、他学科や他学部で学んだ単位を卒業単位に算入することができます。



Point3 フィールドワークと 地域連携

キャンパスの外へ出て行政や福祉施設、文化施設、遺跡や文化遺産、会社や工場などを訪問して実社会と直に向かい合い、問題を発見し、それを解決する手立てを模索します。このような体験型、問題発見型の学修プログラムがフィールドワーク教育です。静岡大学では、全学的にフィールドワーク教育に取り組んでいます。人文社会科学部でも、主に演習や実習などの専門科目において、フィールドワークを実践し、教育効果をあげています。



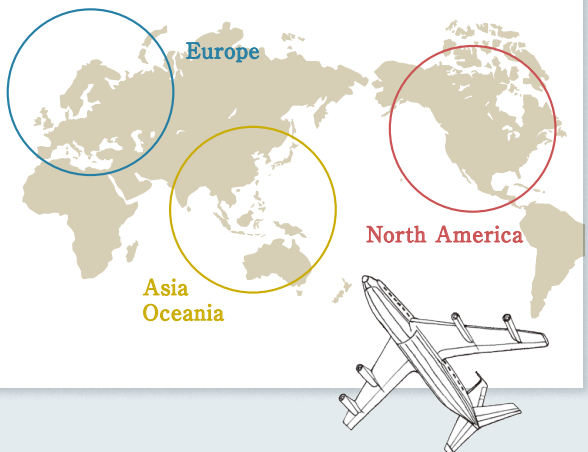
Point2 少人数教育

人文社会科学部では、各年次にわたって少人数教育を徹底させています。新入生セミナーに始まり、基礎ゼミナールから専門ゼミナールへと進む中で、学修の仕方から文章の書き方、研究のノウハウにいたるまでを教員との直接対話の中で学びます。演習をとおして学生ひとりひとりにきめ細かい指導がおこなわれ、大学での研究の集大成として4年次には卒業論文や卒業研究を仕上げていきます。



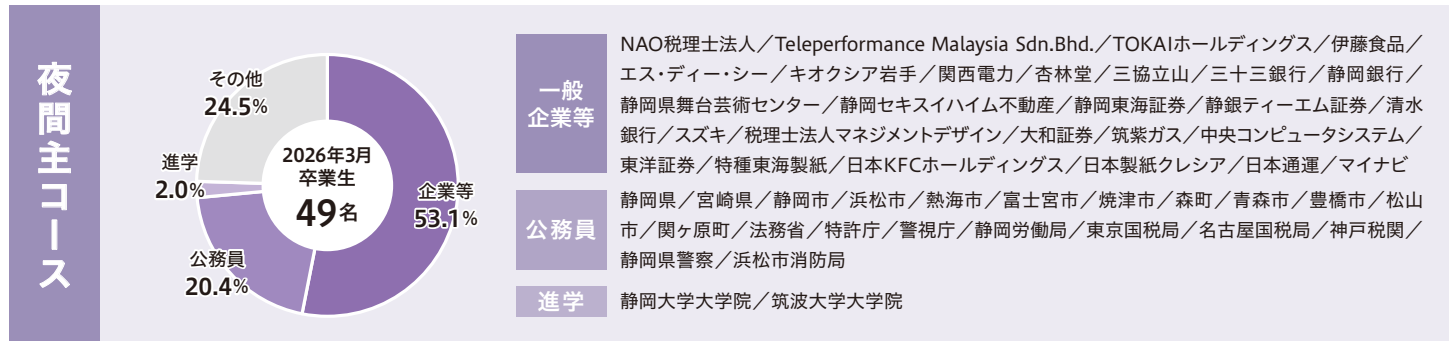
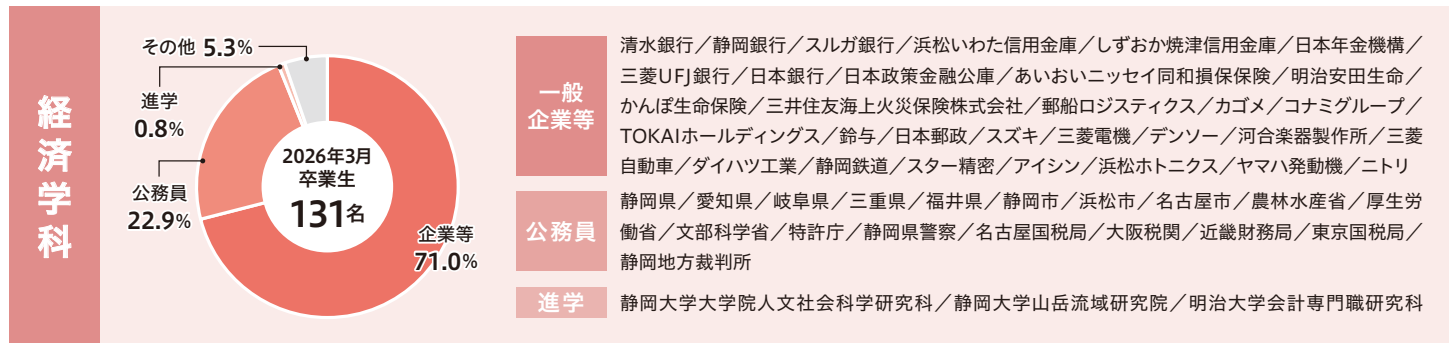
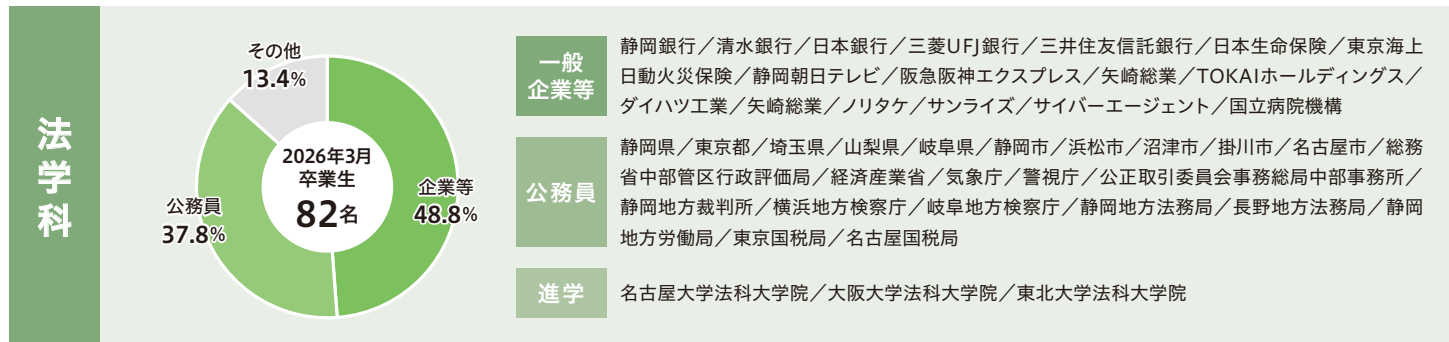
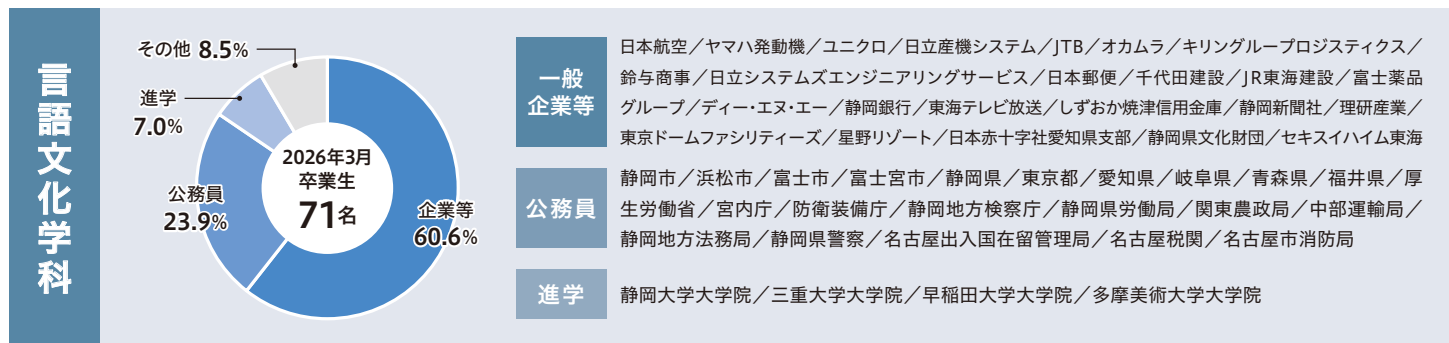
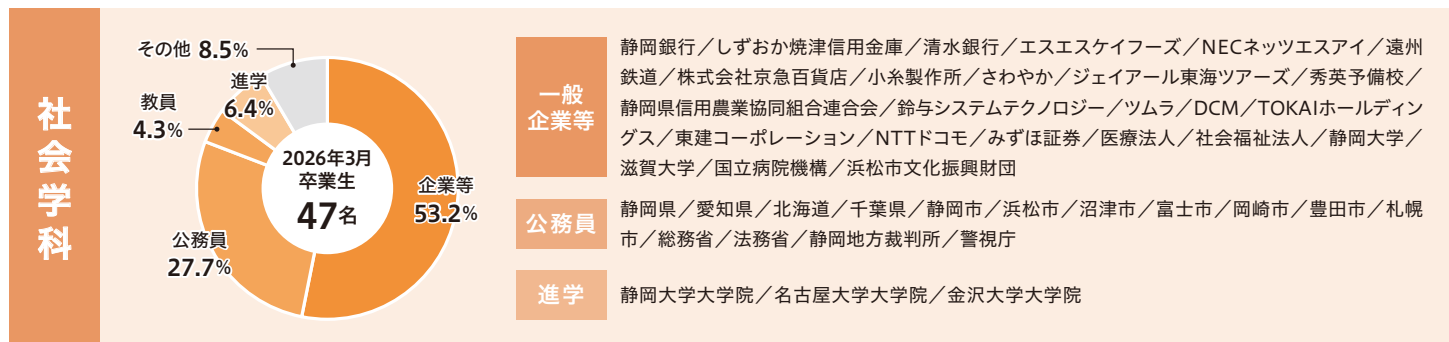
Point4 国際交流関係

グローバル化が進むなかで、国際交流はますます活発になっています。本学・本学部では、諸外国の大学と交流協定を積極的に結び、学生を留学生として派遣しています。留学プログラムは、長期(半年から1年)と短期(2週間前後)が用意されており、自身の希望に合わせて留学することができ、学生が語学研修や相互理解を通じて、友好を深めています。また、諸外国からの留学生も増えており、本学部には現在、100名程度の留学生が共に学んでいます。



卒業後の主な進路

(2023～2025年度卒業生の主な就職先・進学先)



お問い合わせ

静岡大学人文社会科学部学務係

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL 054-238-4486 FAX 054-237-9247

学部HP <https://www.hss.shizuoka.ac.jp/>

E-mail jimbungakumu@adb.shizuoka.ac.jp



交通機関

JR静岡駅北口のしずてつジャストラインバス8番乗り場から美和大谷線「静岡大学」行き、「東大谷」(静岡大学経由)行き、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」(静岡大学経由)行きに乗り「静岡大学」又は「静大片山」で下車

※美和大谷線「東大谷」(静岡大学を経由しないもの)の行きに乗りした場合は、「片山」で下車(所要時間25分、1時間15～7本運行)



人文社会科学部 GUIDE BOOK 2027

Faculty of Humanities and Social Sciences

社会学科

言語文化学科

法学科

経済学科

法学科(夜間主コース)

経済学科(夜間主コース)



二つの目でみること 新たな知の創造へ



人文社会科学部長 堀 博文

「二つの目でみること(Two-Eyed Seeing)」これは、カナダ・ケベック州に居住するミクマック族の長老アルバート・マーシャル氏が提唱した考え方です。一つの目は西洋的な科学に基づく知、もう一つの目は先住民社会で培われてきた伝統的な知による見方を指します。前者が文献など文字記録を通じて蓄積されてきたのに対し、後者は環境の細やかな観察や経験を通じ、口承によって受け継がれてきました。伝統的知識は文字化されていないがゆえに科学的知より劣ると見られがちですが、自然や社会への深い問いに根差した鋭智であり、西洋的科学に比肩しうる価値を有しています。「二つの目でみること」とは、これら異なる知の体系を対立させるのではなく、同時に活用し、統合することによって新たな知を創出しようとする姿勢です。

これら「二つの目」は、別の言い方をすれば、一方は学問的・理論的知、他方は生活世界に根ざした在来知と捉えることができます。従来は前者が重視され、後者が非科学的として軽視される傾向がありました。しかし、学問的知のみでは解決できない複雑な課題が顕在化する現代において、もう一つの「目」の重要性がますます高まっています。これまで経験したことがないほどに急速かつ複雑に変化する社会の真只中にいる私たちに求められているのは、「二つの目」をもって世界を見渡し、ことの本质を的確に掴みとることです。

約80名の教員を擁する静岡大学人文社会科学部は、社会学科、言語文化学科、法学科、経済学科の4学科からなり、人文社会科学の専門知識とともに、多様な問題に実践的に対応できる応用力を身につけることを教育目標としています。全学で行なわれる教養科目に加え、人文社会科学部の各学科で展開される専門科目、更に学科横断型の学部共通専門科目を通じて学問的知を修得するとともに、フィールドワークなど現場を体験する科目を通じて実践的な応用力を会得するようなカリキュラムが用意されています。まさに「二つの目」を得ることが現下の様々な問題の解決には必要であり、それが更に新たな知を創造することに繋がります。そうした「目」を備えた人材を世に送り出すことこそ、私たち人文社会科学部の社会的責務であると考えます。

本学部は、1922年創立の旧制静岡高等学校に淵源を持ち、現在では人文社会科学のほぼ全領域を網羅する全国有数の文系総合学部へと発展しました。更に、社会人の方々が学ぶ場としての夜間主コース、また、本学部に接続する形で、3専攻からなる人文社会科学部研究科を設置しています。百有余年の歴史を有する本学部は、これまで多くの人材を社会に送り出してきました。これからも多くの方が、本学部の門を叩き、その学統の流れに繋がることによって、私たちとともに新たな知の創造を目指すことを願っています。

社会学科

Department of Social and Human Studies

言語文化学科

Department of Language and Literature

法学科

Department of Law

経済学科

Department of Economics

夜間主コース

Night Course

入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

育てる人間像

21世紀の多様な問題に、社会、言語、文化、法律、政治、経済等の分野から取り組むために必要な専門知識と能力を身につけ、国際的な視野と幅広い教養を備え、人類社会の発展に貢献する市民・社会人を育成します。

目指す教育

人文社会科学諸分野の専門教育とともに、専門知識を生かして課題発見・問題解決する能力を育成する少人数教育やフィールドワーク教育（体験型教育）を行います。

求める学生像

人類社会が共に抱える諸問題に関心を持ち、人文社会科学領域に対する学習意欲と、そのための基礎学力を有する人の入学を期待します。

人間社会と文化の研究

理論的色彩の強い分野から、現地調査や実験を重視する分野、文献資料を重視する分野に至るまで人間として社会にさまざまな角度から分析します。

フィールドワーク
基礎演習

幅広い
研究

資格の
取得を
サポート

言語・文学・文化の研究

語学の実践的能力を伸ばしつつ、文化的側面に関する学際的な領域も視野に入れたカリキュラムを組み入れ、言語によって表現されるすべての文化現象に関する研究教育を行っています。

国際性と
多様性

少人数
教育

思考・
表現力の
育成

法的思考力を身につけ、 社会を支える原動力に

現代社会の根幹をなす法と政治について学び、現代社会を読み解く能力、課題を解決する実践力や応用力を身につけます。

2年次から
少人数ゼミでの
高度な教育

法学・政治学
専門の充実
した資料室

キャリアポート
フォリオへの
取り組み

社会経済を主体的に学び問う 人間力を身につける

3分野にわたる広範な専門領域をカバーし、地域から世界にいたる多様で複雑な社会経済のテーマを学べる教育研究体制

現代ニーズ
にも対応した
専門教育

学生主体の
ゼミナール
研究

多様な
専門領域の
教授陣

働きながら学ぶ大学教育

昼間に通学できない社会人・勤労者に大学教育を提供することを目的としています。昼間コースには見られない社会人固有のネットワークがあります。

昼間開講
科目も
履修可能

働きながら
卒業するための
長期履修制度

経済的
負担の軽減

夜間主コース学生の時間割（例） ※オンライン授業も含まれます。

	月	火	水	木	金	土
7-8限目 14:25-15:55						専門科目
9-10限目 16:05-17:35						専門科目
11-12限目 17:50-19:20	教養/専門	教養/専門	教養/専門	教養/専門	教養/専門	
13-14限目 19:30-21:00	教養/専門	教養/専門	教養/専門	教養		

PICK UP
特徴的な授業

専門演習

法学科の専門演習は、法学系では判例やテキストをもとに議論を重ね、政治学系では論文輪読や政策提言をもとに議論を重ねます。場合によっては、フィールドワークを実施することもあります。一連の作業を通じて、法学・政治学的な考え方を体得すると同時に、教員及びゼミ生との交流を通じて知的なコミュニケーション能力を高めることが期待されます。

PICK UP
特徴的な授業

経済学演習

ゼミごとにテキストの輪読や討論、共同論文の作成と『経済論集』への投稿・掲載などを通じて、専門的な探求能力を育むと同時に、教員及びゼミ生との交流を通じて、自らの問題を発見し相互討論の中で問題解決能力を修得します。

歴史学・考古学コース

歴史学・考古学コースでは、3分野（日本史分野・世界史分野・考古学分野）で、文献資料と物質資料に基づいて歴史を自分の視点で捉えなおし、考える方法について学びます。

心理学コース

わたしたちの体験や対人関係をかたちづくる心と行動を理解するための、心理学の知識と研究方法を学びます。公認心理師の受験資格に必要な科目もすべて開講されています。

人間学コース

哲学・倫理学、社会学、文化人類学の3分野から構成され、国内外の現代社会が抱える諸問題について、理論的に考察したり、現地調査を通して分析したりするための手法を身につけます。

PICK UP
特徴的な授業

心理学概論

知覚、学習、感情、性格などの基礎的な心の働きから、対人関係、心の発達やケアなどの応用的な内容まで、基本的な知識を学び、心の働きを科学的に探究するための多様な方法に触れ、人間の心と行動についての理解を深めます。

日本語文化プログラム

日本の文学・文化・芸術のさまざまな作品やその歴史、日本語の特色・歴史などを学びます。また芸術・芸能の鑑賞、図書館やメディア関連施設の見学などの機会も得られます。

アジア言語文化プログラム

中国語や韓国語の基礎を身につけながら、中国・韓国・日本の言語や文学、ならびに関連する文化的領域を幅広く学びます。

英米言語文化プログラム

英米文学・文化関連の授業科目と新しい言語理論によって研究を行う英語学関連の授業科目が開講されています。

ヨーロッパ言語文化プログラム

ドイツ語・フランス語・スペイン語圏を主な対象とした授業が開講されています。言語・文学・文化にわたる多彩な授業科目が開かれています。

比較文学文化プログラム

複数の国や地域の文化を視野に収め文学作品を比較検討したり、ジャンル横断的な文化現象を分析したりします。

言語学プログラム

我々に馴染みのある言語ばかりでなく、少数民族の言語も対象に含め、言語の構造や体系、ある言語と他の言語との関係、言語とそれをとりまく言語外現実との関わりなどを研究します。

PICK UP
特徴的な授業

アジア言語 文化基礎講読

中国古典の逸話集『世説新語』を精読し、古代中国や東アジアに共有される思想・文化、名士たちの言動や生き方を漢文原文から丁寧に読み解きます。「人はどう生きるのか」という古くて新しい問いについて、学生同士で感想や疑問を共有しながら考えていきます。

法学・政治学

激動を続ける現代社会で、私たちは日々新しい事件や出来事に直面しています。その中で一人ひとりが持っている権利を実現するための障害は何か。その障害はどのようにすれば取り除けるのか。法学科では、法学と政治学の幅広い知識を基に、地域社会の問題を的確に把握・解決する能力とともに、国際社会の主要な問題を分析する能力を身につけることを目指します。

講義と並行した4年間一貫の少人数教育で、基礎から段階的に学びを深め、専門知識を獲得していきます。各専門分野の教員が、広範な法学・政治学の領域をカバーしています。現代社会で生じる様々な事件や事象を、法的な視点から読み解き、解決する力を養います。

理論と情報分野

複雑な現代経済のさまざまな問題を論理的に考える理論的知識と、現実の統計データを用いた実証分析の能力を身につけ、行政や企業で求められる「専門職」のための基礎的な力量を身につけることを目的としています。

経済と政策分野

企業と行政、そして地域社会で、世界と日本が直面している地球環境問題、世界の貧富の格差拡大等の諸問題の解決のための政策を創り出していく主体的能力の育成を目標としています。

企業と経済分野

企業経済に関する幅広い知識と、的確な状況分析能力を身につけ、福祉の増進と社会の発展に寄与する人材、あわせて国際化・情報化が進むこれからの企業像や組織経営のあり方をビジョンとして提示しうる人材を育成します。

PICK UP
特徴的な授業

簿記Ⅰ

複式簿記の基礎を理解し、中級の簿記処理ができるようになることを目標にします。また、簿記処理の背景にある会計学的思考についても学んでいきます。

PICK UP
特徴的な授業

民法総論

民法総論では、具体的な事例をもとに、それぞれの制度や条文がなぜ存在するのかを中心に学びます。こうした学びを通じて、日常で生じる様々な問題を民法の視点で捉え、公平・妥当な解決を導く力を獲得することを目指します。

法学科

- 専門科目は、1年次から演習科目を除いてすべての科目を履修できますが、基本科目から履修をはじめ、応用的な科目へと履修を進めるのが望ましいです。
- 憲法・民法・刑法・商法・訴訟法・政治学といった法律学・政治学に関する基本的な科目をはじめ、国際法・国際政治といった広く世界との関わりの中で法律学・政治学を考える科目、行政法・労働法・社会保障法といった私たちの社会生活で必要不可欠な法制度を学ぶ科目など、多彩な専門科目を履修できるようカリキュラムが組まれています。

経済学科

1年次から多様な専門科目を学ぶことができ、社会人学生たちの実務的なニーズにも対応したカリキュラムになっています。3年次からは、少人数制の経済学演習（ゼミ）を履修することが可能で、教員や他学生とのディスカッションを通じてグループ研究に取り組むだけでなく、個別指導によって演習研究論文（3年次）や卒業論文（4年次）を作成することもできます。

- 専門科目は、一部を除き昼間コースと同じ科目が開講されます。昼間コースにしかない科目を履修し単位を取得すると、自由科目として認定されます。
- 1年次には、前期に新入生セミナー、後期に社会科学基礎演習が実施され、担任制をとっています。
- 土曜日授業は、オンデマンド方式によって実施されます。

※内容は変更する場合がありますので、必ず最新の募集要項で確認してください。

入試概要

選抜区分	対象学科	募集人員	選抜方法	実施時期	募集要項 公開時期
社会人選抜1期	■法学科（夜間主コース） ■経済学科（夜間主コース）	15名 7名	●小論文 ●面接	11月上旬	8月下旬
3年次編入・転入学試験	■法学科 ■法学科（夜間主コース）	2名 3名	●小論文 ●面接	11月上旬	8月下旬
総合型選抜	■経済学科	6名	●論述試験 ●面接	11月下旬	6月下旬
学校推薦型選抜	■社会学科 ■言語文化学科 ■法学科 ■法学科（夜間主コース） ■経済学科 ■経済学科（夜間主コース）	13名 16名 12名 15名 26名 15名	●大学入学共通テスト成績 ●面接	11月下旬	8月下旬
私費外国人留学生選抜	■社会学科 ■言語文化学科 ■法学科 ■経済学科	2名 3名 若干名 5名	●日本留学試験成績 ●小論文 ●面接	2月上旬	8月下旬
社会人選抜2期	■経済学科（夜間主コース）	8名	●小論文 ●面接	2月下旬	8月下旬
一般選抜前期日程	■社会学科 ■言語文化学科 ■法学科 ■経済学科	45名 50名 54名 105名	●大学入学共通テスト成績 ●個別学力検査	2月25日	10月下旬
一般選抜後期日程	■法学科	18名	●大学入学共通テスト成績 ●個別学力検査	3月12日	10月下旬

入試についてもっと詳しく知りたい方は
こちらからアクセスしてください。

